

# 子どもの

見ているつもり? 聞いているつもり?

# 声を聴く

## 2

### 食事の時に育つ 小さな自尊心

愛知県碧南市  
へきなんこども園園長  
ユリア

私の園では、一人ひとりの子どもにしっかり向き合って食事を進めています。

離乳食を食べ始めた頃の子どもたちには、子ども1人に保育者1人がついて進めます。その後、一人ひとりの発達に応じて必要な手助けができるようなら、1歳児については2人同時に進めます。

2歳児については、ほぼ手助けしなくてもきれいに食べられる状態であるなら、初めの盛りつけのところだけ1対1で対応します。そして食べ始めたら、次の子の盛りつけに移ります。結果として、最大6人が一緒に食べていました。しかし、今はコロナ禍のために、アクリル板を設置して、4人が一緒に食べている状態です。

各家庭においても、食事の間中ずっと子どもに付き添って食べることは、離乳期を除いてはなか

なか難しいこともありますね。

園では、離乳食を食べる子どもを保育者が見守る時には、子どもの口や舌の動かし方や、腕の筋肉の発達の具合なども丁寧に見極めていきます。そして、「美味しいね～」などと情緒的に話しかけながら、食事を楽しめるようにしています。

園での食事は、「今日はどれくらい食べられるか」を一人ひとりの子どもに聞きながら盛りつけし、配膳をしています。このことは、0歳の子どもでも同じです。

保育者みんなが、きちんとそうしてくれているつもりでした。

ある日のことです。乳児の食事について、0歳児と1歳児の動画配信をする映像を私が確認していると、そのことができていないように見えました。「アレっ?」と思い、乳児の食事について園内研修を行うことにしました。

映像を見て検証した結果、「今日はどれくらい食べられる?」と、子どもに一応聞いてはいるようでしたが、その返事をきちんと受け止める保育者の動作が見られませんでした。

つまり、乳児の場合は、言葉での返事ではなく、アイコンタクトや動作を見て子どもの意思を確認することが必要なのですが、いつの間にか「一応聞いています」という状態になっていました。

認識を新たにして取り組んでいます。

さて、なぜ子どもに聞くことをしているのか、と言いますと、いくつかの大切な意味が込められています。それは、

- ・あなたのこと（あなたの意思）を大事に思っていますよ。
- ・あなたは、今日、どれくらい食べられますか?（子ども自身が体のニーズを知る）
- ・あなたが表明したことを尊重しますよ。
- ・自分を大切に、自分で決めて行動する。ということなのです。

そしてそれは、日々のさまざまな保育実践へとつながっています。

ところで、私の園では、陶器の食器を使っています。プラスチック製の食器に比べて重いし、落としたりして割れることもあります。ところが、2歳児の食事の風景を見た時のことです。

食事が終わると、自分の食器は自分でカゴの中に片づけるのですが、重ねて置く時も、ガチャンと音が出ないように、そっと積み重ねていました。置く位置も、少し傾くようなら別のところを自分で探して、そっと置いています。

2歳児がちゃんと、食器が壊れないように自分で考えて置いている姿を見て、感動すら覚えました。ともすると、大人のほうがガチャン、ガチャンと音を立てて置いているかも知れません。

ある研修会で、私の園の食事についてお話しした後に、自園で2歳児クラスを担当している保育者から次のような質問がありました。

「へきなんこども園では、2歳児がエプロンを必要とせず、誰もこぼすこともなく食事していますが、どうしたらそうできますか。」

私の園では、子どもたちがこぼしてしまうから、エプロンを付けているのですが…

そこで私は、「では、どういう場面でこぼしていますか」と聞いてみました。しかし、質問した保育者は、私の質問には答えることができませんでした…。

つまり、形としては担当の子がいて、その隣に座っていますが、その子のことが見えていない状況であることがわかります。

さて、初めの質問の答えは、その子をよく見て、こぼしてしまいそうなところをサポートするということです。しかし、2歳児でまだサポートが必要であるということは、0歳・1歳の時の「見る」ということと、「サポート（手助け）」がちょっと足りていなかったということです。

こぼさないようにさせるのではなく、きれいに食べられるように、丁寧に見ることを重ねていくことで、結果としてこぼさないということです。

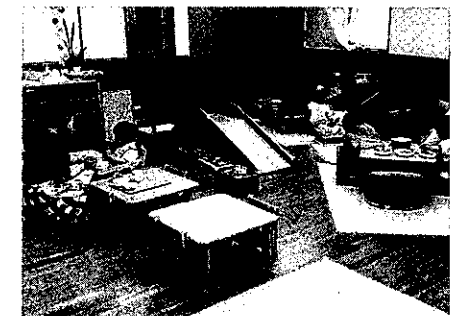
最後に、日々の保育を深めるために開いている職員研修・職員会について、少しお話ししたいと思います。

私の園では、「現場について知りたいことを、現場からの提案によって学ぶ。または、その時現場で話し合いたいことを現場からの提案によってテーマを決めて、職員会を開く」、最近では、そうした開催のパターンが多くなっています。

定例の職員会は、週1回・金曜日の午後1時15分～2時15分の1時間と決まっています。

子どもたちに対する保育観が深まることと同じように、職員の自発性・創造性が育まれているように思います。

職員に、感謝！感謝！です。



1歳児：離乳食の子は1対1で進めます。ほかの子は遊んでいます



2歳児：盛りつけは1人ずつ進めて、4人で食べているところです

\*この連載は、和田秀一先生とユリア先生に隔月交替でご執筆いただきます。